

CDB での 5 日間(もっといたかった…)

東京大学理学部生物学科 3 年 池田貴史
(配属先：発生エピジェネティクス研究チーム)

今回の CDB インターンシッププログラムに応募したのは二つの目的がありました。一つは大学の実習ではやらないような高度な実験をしてみたいということ、もう一つは研究者の方や全国から集まる同年代の生物学を学ぶ人たちの話を聞き、これから自分がどういう道に進むかを考える助けにしたいということでした。ありがたいことに、この二つの目的はどちらも達成することができました。

私がお世話になったのは発生エピジェネティクス研究チームです。この研究室ではウェットな実験をメインに行っているのだと思い込んでいましたが、実際に行ってみると研究員の方々の多くがインフォマティクス解析もしていってました。中には独学でその解析技術を身につけたという方もいて、大学で教わる機会がないからとこれまでこの分野を避けていた自分を恥ずかしく思いました。

わたしたちが今回体験したのは FISH を用いた染色体凝縮の可視化です。実験を進める中で研究員の方に細かなノウハウや画像解析の手法を教わることができました。最終日には得られた結果をプレゼンするのですが、わかりやすく発表するためにはどうすればよいか様々な助言をいただきました。発表の後の質疑応答では質問の意味を取り違えたりして経験不足を実感したのですが、それも含めて実験から結果解析、発表という研究活動における一連の流れを通じて実践的な知識を得られたのは初めてで、今後の勉強の参考になる貴重な体験だったと思っています。

期間中はずっと実験ばかりをしていたわけではなく、講義を受け、ほかのラボの見学に行き、インターン生や研究者の方々の話を聞き、5 日といわずもっと長く続けたいような刺激的な毎日でした。特にラボヘッドの方々から伺った研究分野の選び方に関するアドバイスなどは今後の進路の参考になる貴重なものだったと思います。

最後に、インターンシップ期間を通じてつきっきりで指導してくださった発生エピジェネティクス研究チームの皆様と様々なサポートをしてくださった事務局の方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。



研究発表での池田貴史さん (左)